

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



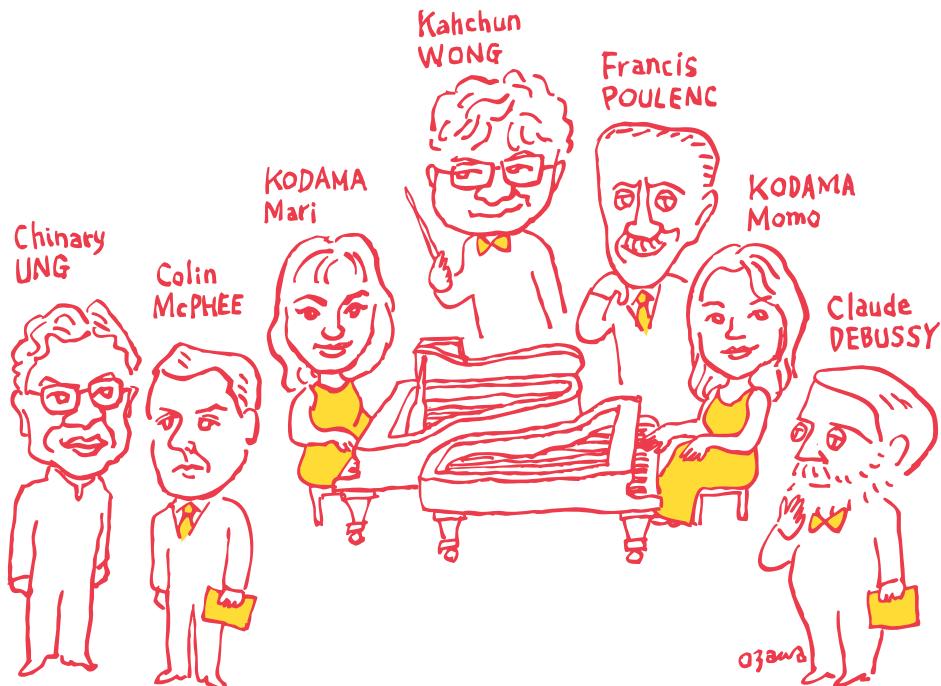
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

SUBSCRIPTION CONCERTS

2024

1
JAN

第 757 回
東京定期演奏会



サントリーホール

2024年1月26日(金)19:00

1月27日(土)14:00

日本フィルハーモニー交響楽団



あれもこれも、で
いい街にしよう。

たとえば、伝統と革新。都市と自然。
経済と文化。住む人と働く人。
あれかこれか、ではなく、あれもこれも。
私たち三井不動産は、
異なる概念やさまざまな人を結びつけて、
イノベーションや挑戦、
驚きや希望や愛といった、
新しい価値を次々と街に生み出していきたい。
そして街に集う人たちと一緒に、
その先の日常をつくっていきたい。
街は人とともに。
三井不動産の「&」の街づくりは続きます。

& 三井不動産
MITSUI FUDOSAN

CONTENTS

目次



©Angie Kremer

❖ プログラム	4
❖ 出演者プロフィール	6
❖ プログラム・ノート- 山野 雄大 -	9
❖ カーチュン・ウォンこれまでの演奏会	13
❖ 写真プレイバック- 2023年11月～12月 -	14
❖ あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、あらゆる地域へ、世界へ	15
❖ 感動の共有 ～ご支援のお願い～	19
❖ 日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名	20
❖ パトロネージュご芳名	24
❖ Member's TVU CHANNEL 配信一覧	26
❖ 新入団員紹介	27
❖ 次回東京定期演奏会 指揮者にインタビュー リープライズ編	28
❖ インフォメーション	30
❖ 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 名簿	31

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA 757th SUBSCRIPTION CONCERTS

日本フィルハーモニー交響楽団
第757回 東京定期演奏会

サントリーホール Suntory Hall

2024年1月26日(金)午後7時開演／27日(土)午後2時開演

7:00p.m., Friday, 26th & 2:00p.m., Saturday, 27th January, 2024

主催／公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援：シンガポール共和国大使館

協賛／鹿島建設株式会社 三井不動産株式会社

助成：文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

表紙イラスト／小澤一雄



文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

公益財団法人アフィニス文化財団



公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション

演奏中のマナーにご協力を
お願いいたします。

■ 演奏会をお楽しみ
いただくために

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。また手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声などで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

■ 電源OFF



■ 声と拍手にご注意を



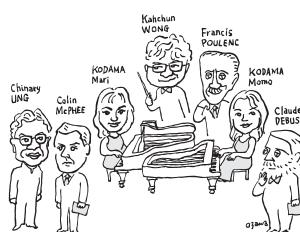
■ 周囲にご配慮を



■ 音にご注意を



■ 撮影禁止



チナリー・ウン：

《グランド・スパイラル：砂漠の花々が咲く》

約12分

Chinary UNG: Grand Spiral (Desert Flowers Bloom)

プーランク：2台のピアノのための協奏曲 二短調*

約19分

Francis POULENC: Concerto for two Pianos and Orchestra in D-minor

休憩(15分) Intermission

コリン・マクフィー：タブー・タブーアン

一オーケストラと2台の

ピアノのためのトッカータ*

約20分

Colin McPHEE: Tabuh-Tabuhan, Toccata for Orchestra and 2 Pianos

ドビュッシー：《海》

一オーケストラのための

3つの交響的素描

約23分

Claude DEBUSSY: La Mer, trois esquisses symphoniques pour orchestre

指揮：カーチュン・ウォン[首席指揮者]

Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor

ピアノ：児玉 麻里*

Piano: KODAMA Mari

ピアノ：児玉 桃*

Piano: KODAMA Momo

コンサートマスター：田野倉 雅秋[日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：門脇 大樹[日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。ご要望の方は主催者までお申し出ください。



Conductor

**カーチュン・ウォン
[首席指揮者]**

Kahchun WONG, Chief Conductor

指揮

©Ayane Sato

日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者を務めるシンガポール出身のカーチュン・ウォンは、その舞台における圧倒的な存在感と東洋と西洋の芸術的遺産を探求し続ける思慮深さにおいて国際的に高く評価されている。2025年秋からはサー・マーク・エルダー氏の後任として、英国マンチェスターに本拠を置くハレ管弦楽団の首席指揮者兼アーティスティック・アドバイザーに就任することが決定している。

2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝。ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、トワールーズ・キャピトル国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラに客演。

ウォンは多くの現代作曲家と強い信頼関係を築いており、今シーズンはバービカン・センターでBBC交響楽団と共に細川俊夫の《祈る人》の英国初演、およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者就任記念演奏会のために特別に委嘱された、タイの作曲家ナローン・プランチャルーンの《影の反映》

の世界初演、また2022年には高名な導師でありインド人ヴァイオリニストであるカラ・ラムナスのために書かれた、レーナ・エスマイルの「ヒンドウスタンヴァイオリンのための協奏曲」をシートル交響楽団演奏にて世界初演したほか、2019年にはニューヨーク・フィルハーモニックとタン・ドゥン(譚盾)の《火の儀式》の米国初演を指揮している。国内においては日本フィルハーモニー交響楽団とのサントリーホール定期公演シリーズにて伊福部昭、芥川也寸志、小山清茂、外山雄三らの作品を定期的に演奏している。2022年、東京オペラシティ財団の招聘により、武満徹の意欲的な作品《弧》を中心とした管弦楽作品を集めた公演を大成功に導き、日本の主要批評家によってその年の最も優れた演奏会の一つに選ばれた。



Piano

児玉 麻里

KODAMA Mari

ピアノ

©Sergio Veranes

大阪生まれ。6歳で渡欧。14歳の時、最年少、最優秀でパリ国立高等音楽院に入学。ピアノをジェルメーヌ・ムニエ、タチアナ・ニコラエワ、アルフレッド・ブレンデルに、室内楽をジュヌヴィエーヌ・ジョア・デュティユに学ぶ。17歳でプルミエ・プリを獲得して卒業。同年、同音楽院のマスター・コースに進み、19歳で修了。この間、数多くのコンクール等で、優勝、上位入賞を果たす。

同音楽院を修了後すぐに、ロンドン・フィルとバービカン・センターで共演、ロンドン・デビューを果たす。更に同年、クイーン・エリザベス・ホールで、ロンドンでのリサイタル・デビュー。「これほど若くて感受性に富んだピアニストには会えない…」と賞賛された。1995年にはカーネギー・ホールでニューヨーク・デビューを果たす。また1999年からロサンジェルスにて、2003年から東京の浜離宮朝日ホールにて、「ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ全曲演奏会」に取り組み、高い評価を得た。

現在、ヨーロッパ、アメリカ、日本、アジアで演奏活動を展開する数少ない国際的なピアニストとして名声を確立している。

これまでに共演した主なオーケストラ

には、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、フィルハーモニア管、イタリア国立放響、ハンブルク北ドイツ放響、オランダ放送管、リヨン国立歌劇場管、ロサンジェルス・フィル、バークレイ響等。更にアジアでは、N響、都響、読売日響、日本フィル、大阪フィル、名古屋フィル、シンガポール響等におよぶ。

共演した主な指揮者は、ケント・ナガノ、シャルル・デュトワ、フランス・ブリュッヘン、ベルンハルト・クレー、レイモンド・レッパードなどの錚々たる顔ぶれが並ぶ。

また、出演した主な音楽祭には、ザルツブルク、エヴィアン、エクサン・プロヴанс、ヴェルビエ、ラヴィニア、アスペン、サイトウ・キネンなどがある。

CD録音も活発で、2003年から11年の歳月を費やし完成させた『ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ全集』のCDが2014年にオランダのペントトーンよりリリースされ、更にケント・ナガノ指揮による『ベートーヴェン:ピアノ協奏曲全集』(第0~5番)も完成させた。その他、『プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第1番・第2番』、『ショパン:ピアノ協奏曲第2番』などもリリースしている。





Piano

児玉 桃

KODAMA Momo

ピアノ

©Marco Borggreve

J.S.バッハからメシアンを含む現代作品まで、幅広いレパートリーと豊かな表現力で活躍を続ける国際派。幼少の頃よりヨーロッパで育ち、パリ国立高等音楽院に学ぶ。1991年、ミュンヘン国際コンクールに最年少で最高位に輝く。

その後、ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィル、小澤征爾指揮ボストン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、北ドイツ放送交響楽団との共演、デュトワ指揮NHK交響楽団とのアジアツアーのソリストを務めるなど着実に世界的なキャリアを築く。

2008年は、メシアン生誕100年を記念したシリーズ公演(全5回)を行い高い評価を得た。2013年にはルツェルン音楽祭、ウィグモアホール、東京オペラシティ文化財団の共同委嘱による「細川俊夫:練習曲集」をルツェルン音楽祭にて世界初演、12月には東京オペラシティにて日本初演、翌年ondon・ウィグモアホールでも演奏。

最近の活動としては、ウィーン・ムジークフェラインへのデビュー(メルクル指揮、ウィーン・トーンキュンストラー管)、ノリントン指揮フランス放送フィル、フォスター指揮パリ室内管弦楽団との共演をはじめ、室内楽では、ベルリン・コンツェルトハウスで

の室内楽など、ヨーロッパでも活躍の幅を広げている。

CDはオクタビア・レコードより『ドビュッシー:impressions』、『ショパン・ピアノ作品集』『メシアン:幼子イエスに注ぐ20のまなざし』がリリースされており、ヨーロッパでも高い評価を得ている。2010年1月にはメシアンの『鳥のカタログ』全集をリリース。ECMよりリリースされたCD『鐘の谷~ラヴェル、武満、メシアン:ピアノ作品集』は、ニューヨーク・タイムズ、サンフランシスコ・クロニクル、ル・モンド・ド・ラ・ムジーク、仏クラシカ・マガジン、テレラマ等で大絶賛を博し、2017年にはECM第2弾、『点と線・ドビュッシー&細川俊夫:練習曲集』をリリース。さらに、ペントーンより、姉の児玉麻里との連弾によるチャイコフスキードラベエ抜粋をリリースしている。2021年3月、ECM第3弾となる『細川俊夫:月夜の蓮 - モーツアルトへのオマージュ-、モーツアルト:ピアノ協奏曲第23番』をリリース、大きな話題を呼んだ。

2009年中島健蔵音楽賞および芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

カールスルーエ音楽大学(ドイツ)教授。
パリ在住。

プログラム・ノート 解説:山野 雄大

■ チナリー・ウン:《グランド・スパイナル:砂漠の花々が咲く》 ——オーケストラのための

本日のコンサート、珍しい選曲には〈アジアと西洋音楽の出逢い〉というテーマが強く響いている。はじめにお聴きいただくのは、アジアの美学と西洋現代音楽の技法を見事に融合させた音楽として、もっと知られてほしい秀作だ。

チナリー・ウン(1942~)は、カンボジア生まれのアメリカ人作曲家。クラリネットを学んだのち、1964年に奨学金を得てアメリカへ。作曲に転向し、周文中(チョウ・ウェンチュン/鬼才ヴァレーズに師事した中国出身の現代作曲家)に学んで博士号を取得する。

ところが、故国で内戦が始まり、共産党政権によるホロコーストがおこなわれた。この時代、在米だったウンの作曲活動はぴたりと止まる。ウンは難民の支援に取り組みながら、カンボジアの文化を守るべく独学で故国の楽器や音楽を学び直し、アンサンブルを結成して何百もの演奏会をおこない、歴史的録音を保存する活動を展開し……と、文化の抹殺に抗する活動に没頭した。

広くアジア音楽にも研究を深めたウンは、80年代に作曲家としての活動に復帰してからも、その成果を自身の音楽へ深く自在に反映させる。「東洋が黄色、西洋が青なら、私の音楽は緑だ」と語る

ウンは、ユニークな作品を数々発表。オーケストラ曲《内なる声たち》(1986年)でグロマイヤー作曲賞を受賞するなど高く評価されたウンは、〈スパイナル(螺旋)〉と題された独奏曲・室内楽曲のシリーズ(1987年~)など新たな音世界を切り拓いている。

〈スパイナル〉シリーズは、前のパッセージが別の方法で再表現されて新しいフレーズを作り続ける、それこそ〈螺旋〉のように繋がりつつ変化してゆくコンセプトが軸となっている。作曲家いわく、螺旋のプロセスはフレーズの連續を伸ばすだけでなく、音の〈スピンドル〉のエネルギーも生む……とのことだが、この独特的の時間感覚は、後ほどお聴きいただくドビュッシー《海》と比べると大変に面白い。

ウンは1990年に吹奏楽のための《グランド・スパイナル》を作曲。これを管弦楽曲に書き直したのが、本日の《グランド・スパイナル:砂漠の花々が咲く》(1991年)だ。精巧な装飾と豊かなニュアンスに満ちたヴォーカルを彷彿させる旋律線、豊穣な音色とその頻繁な変化など、劇的ながら澄んで多彩な響きが素晴らしい。作曲家いわく「インスピレーションの源は、陽光をプリズムのように

反射しながら絶えず回転している、半透明の彫刻のイメージ」だったという。

いっけん捉えがたいけれど、直感的にその何か大きなものが強く立ち上がつてくる本作、オーケストラ編作にあたつて付け加えられた《砂漠の花々が咲く》というタイトルの意味は、音楽が教えてくれるだろう。

■ プーランク：2台のピアノのための協奏曲 二短調

富裕な実業家の息子としてパリのど真ん中に生まれたフランシス・プーランク（1899～1963）は、幼い頃から豊かな文化を呼吸して育ったひと。彼の音楽は、鋭いセンスと豊かな色彩感、ときに辛辣な Witt を閃かせながら、透明感と豊かな旋律の魅力を忘ることはない。

1932年に書かれた本作は、2台のピアノがそれぞれ人格も異なる様子で繰り広げる対話も魅力的で、プーランクの愛した様々な音楽の要素も、オマージュの花束のように薫り響いている。彼は作曲にあたって、彼が幼少期から最も愛した作曲家であるモーツアルトをはじめ、リストの作品、同時代の優れた作曲家・指揮者マルケヴィチの《パルティータ》を研究。さらに同年1月に初演されたばかりのラヴェル《ピアノ協奏曲ト長調》にすっかり魅了され……そうした諸作からの影響が、この曲にちりばめられているのだ。

急・緩・急と3つの楽章は、様々な要素が自由自在に(生き生きと!)飛び交う、明るい幻想曲風の音楽だ。第1楽章《アレグロ・マ・ノン・トロッポ》から、いっけん古典的な形式だが、脱線したり変身したり……なに

樂器編成：ピッコロ1、フルート2、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン持替1）、クラリネット3（E♭管クラリネット持替1）、バス・クラリネット持替1）、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、ポンゴ、コンガ、ヴィブラフォン、ベル・ツリー、マリンバ、クラベス、チューブラーベル、銅鑼、トムトム、アンティーク・シンバル、シズル・シンバル、ウッドブロック、タンブリン、 WINDOW・ゴング、テンブル・ブロック、ティンバレス、タイ・ゴング、ハープ、ピアノ、弦楽5部。

■ コリン・マクフィー：《タブー・タブーアン》

——オーケストラと2台のピアノのためのトッカータ

西洋の作曲家たちが〈東洋〉に惹かれた歴史は古いが、特に19世紀後半のフランスでは数々の作曲家が民族音楽に特徴的なペントナトニック（五音音階）や東洋の旋法を用いるなど、異国情緒を醸し出した作品を書いている。たとえば1889年、パリ万国博覧会を見物しに岡かけた作曲家ドビュッシーは、ジャワ島のガムラン演奏と舞踊から強烈な印象を受け、それ以降の作品のあちこちに東方由来の要素を（も）織り交ぜてゆくようになった。しかし、彼が（後のプーランクと同じく）影響を直接に採り入れるではなく、既に彼自身のなかにあった語法を強化するように用いたのに対し、パリ島のガムラン音楽へより近しく飛び込んでいった作曲家もいた。それがコリン・マクフィー（1900～1964）だ。

マクフィーはカナダのモントリオール生まれ。パリ留学のちニューヨークで活動を始めたところで、当時SPレコードで発売されたパリ島の音楽を聴いて、その未知の響きに取り憑かれる。1931年からはパリ島に滞在、ガムランを訪ね歩きながら作曲家・民族音楽研究家として盛んな活動を展開した。

そもそも西洋音階と異なる音階・音程をもって、複雑に重なり合う中から生まれる、独特的時間と音宇宙——ガムラン音楽に魅せられたマクフィーは、何十ものガムラン音楽を（西洋音楽の音階と記譜法で）採譜・編曲しただけでなく、それ

らの素材を生かしたオーケストラ作品《《タブー・タブーアン》——オーケストラと2台のピアノのためのトッカータ》（1936年）を作曲する。

作曲者いわく、タイトルは〈打楽器を叩く槌〉や〈ビート〉を意味するバリの言葉に由来するそうで「本質的に打楽器的な音楽を意味する」とのこと。まず〈核ガムラン〉と呼ぶ楽器セット [=2台のピアノ、チェレスタ、木琴、マリンバ、鉄琴] がオーケストラの核に据えられ、ガムランの太鼓やゴングも様々な楽器で模されるなか、「パリ音楽のシンコペーションのリズムの多くは、ラテンアメリカのポピュラー音楽やアメリカのジャズと密接な親和性を持って」と感じたあたりも自在に反映されているのが面白い。

構成は西洋音楽的。急・緩・急の全3楽章から成り、第1楽章《オスティナート》（=一定の音型を繰り返す）に続いて、マクフィーがパリ島で聴いたメロディをフルート独奏が奏して始まる第2楽章《ノクターン（夜想曲）》、そして第3楽章《フィナーレ》の昂揚へ。

マクフィーについては、自身の回想録であるコリン・マックフィー／大竹昭子訳『熱帯の旅人 パリ島音楽紀行』[河出書房新社／1990年] のほか、彼を軸にその影響圏を広い視野で捉えた小沼純一『魅せられた身体 旅する音楽家コリン・マクフィーとその時代』[青土社／2007年] が知的昂奮に満ちた必読書。Mervyn

Cooke "Britten and the Far East" [The Boydell Press / The Britten-Pears Library, 1998]にもマクフィー、ブーランク作品に触れた論考があるので、ご興味あるかたは参照されたい。

■ ドビュッシー:《海》——オーケストラのための3つの交響的素描

煌めきから陰翳まで繊細夢幻に薫りた色彩を、聴覚の喜びへと自在に響かせていったひと……伝統にとらわれず、型破りな才能で未知の海原を拓いていったクロード=アシル・ドビュッシー(1862~1918)の音楽には、多種多様な音楽文化からの影響も溶け込んでいる。傑作《《海》——オーケストラのための3つの交響的素描》(1903~05年)でも、長調・短調の響きより、古くからある様々な旋法の色あいや、ペントナミック(東洋をはじめ各地の民謡にも用いられる5音音階)などを積極的に生かしながら、多彩なハーモニーがゆらめき、波うち、煌めきのしぶきをあげる。

副題に〈エスキス(素描)〉とあるが、心の内なる印象、記憶の襞から沸きあがてくる感覚が、音となって響きさかまく3章は、実際の海の情景をそれらしく表現するわけではない。むしろ、繊細に磨き込まれた音と響きのニュアンスとその集積から、多彩で膨大なイメージが広がってゆく時間のうねり、常に変化し続ける〈音の海〉を生きる体験……と言ったほうが近いかも知れない。

3つの楽章には、それぞれ詩的なタイトルがついているけれど、具体的な風景を喚起するものではない。——第1楽章《海の

楽器編成:独奏ピアノ2、ピッコロ2、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、太鼓、シンバル、トライアングル、銅鑼、バリニーズ・ゴング、シロフォン、サンドペーパー・ブロック、マリンバ、グロッケンシュピール、バリニーズ・シンバル、テューブラーベル、ハープ1、チェレスタ、弦楽5部。



©Angie Kremer

从此の
カーチュン・ウォン演奏会

第760回東京定期演奏会

サントリーホール

2024年 5月 10日(金) 19:00 開演 11日(土) 14:00 開演

マーラー:交響曲第9番

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys(25歳以下)¥1,500

好評発売中

特別演奏会

昭和女子大学人見記念講堂

2024年 5月 25日(土) 14:00 開演

第404回名曲コンサート

サントリーホール

2024年 5月 26日(日) 14:00 開演

ピアノ:小菅 優

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番

チャイコフスキイ:交響曲第5番



©Takehiro Goto

2024年
2月14日(水)
発売

5/25 1回券料金 S ¥6,000 A ¥4,500 B ¥3,500 Gs(65歳以上)¥3,500 Ys(25歳以下)¥1,500

5/26 1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000
Gs(65歳以上)¥5,000 Ys(25歳以下)¥1,500

第255回芸劇シリーズ

東京芸術劇場

2024年 6月 2日(日) 14:00 開演

坂本龍一:地中海のテーマ(1992年パレセロナオリンピック開会式用音楽) 他

2024年
2月14日(水)
発売

1回券料金 S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥5,000 C ¥4,000
Gs(65歳以上)¥4,000 Ys(25歳以下)¥1,500

Playback プレイバック



11月、12月の公演を
振り返ります



PHOTO 1 11月6日～8日
文化庁巡回公演 第2クール

11月6日細田学園中学校、7日三芳町立三芳東中学校、8日川口市立在家中学校に指揮阿部未来さん、ソプラノ坂井田真実子さんと共に演奏を届けました。コンサートマスターの木野雅之とバシャリ



PHOTO 2 11月18日さいたま定期、
11月19日杉並公会堂シリーズ

西本智実さんとともに重厚で美しいドヴォルジャークの音楽をお届けしました。堤剛さんが奏でる豊かであたたかな音色にうっとり。西本さん、堤さん、コンマス田野倉のスリーショットをどうぞ



PHOTO 3 11月25日横浜定期演奏会、26日芸劇シリーズ
首席指揮者カーチュン・ウォンとピアニスト福間光太朗さんの初の共演となったこの公演。プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番やチャイコフスキイの交響曲第6番《悲愴》などをお届けしました。



PHOTO 4 12月8日9日東京定期演奏会

首席指揮者カーチュン・ウォンとマリンパの池上英樹さんを迎えて伊福部昭のラウダ・コンセルタータ・ショスタコーヴィチの交響曲第5番などをお届けしました。ラウダ・コンセルタータでは池上さんはまるで踊っているかのような躍動感!*



PHOTO 5 12月23日冬休みオーケストラ探検
例年3月に「春休み」オーケストラ探検としてお送りしている公演の「冬休み」お引越し版。クリスマス・パーティーへようこそ!をテーマにクリスマスの定番《くるみ割り人形》組曲を0才からお楽しみいただきました。



PHOTO 6 12月16日～27日第九特別演奏会2023
2023年はようやく制限なく第九をお届けすることができました。ありがとうございました。そして、今年もどうぞよろしくお願ひいたします!*

*印のアーカイブ配信はMember's TVU CHANNELで。
<https://members.tvuch.com>



あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、
あらゆる地域へ、世界へ

福島県双葉町で、震災後初めての「被災地へ音楽を」公演

福島第一原子力発電所が立地する福島県双葉郡双葉町は、2011年3月の原発事故で自治体として唯一、県外に町役場ごと避難しました。当時、原子炉建屋の水素爆発が相次ぎ放射線量が上昇するなか、「原発から少しでも遠くへ」という切迫した状況下での県外避難でした。最初の爆発から1週間後、向かった先は210キロ離れた埼玉県。さいたま市の「さいたまスーパーアリーナ」から、更に3月末には加須市にある旧県立騎西高校に設置された町役場兼避難所へ移り、約1200人が集団で3年近く暮らしました。その間、各地の自治体が用意した空き公団住宅や震災後に整備された復興住宅等に入居するため、町民は福島県内のいわき市をはじめ、郡山市、南相馬市、茨城県つくば市に移住し、現在も町役場の支所が、加須市も含め各市に設置されています。

日本フィルは東日本大震災による「被災地に音楽を」の活動の一環で、2011年5月加須市に避難した双葉町の小中学生が編入した、加須市立騎西小学校と騎西中学校に、弦楽四重奏（小学校）、金管五重奏（中学校）で訪問コンサートを行いました。会場の体育館には保護者も招き、地元と双葉町の児童生徒と保護者が一緒に生の音楽を楽しみ、校歌も歌いました。

震災から11年後の2022年8月に帰還困難区域の一部の避難指示が解除され、住民の帰還が始まりましたが、現在も町の面積の85%は帰還困難区域に指定されており、居住人口を増やすための生活環境の整備や、町を離れて避難を続ける住民とのつながりをいかに保っていくかが、課題となっています。

そんな中、2023年11月11日、日本フィルの弦楽四重奏のメンバーは、震災後初めて常磐線双葉駅に降り立ちました。車で10分程の海岸までの道沿いには、震災伝承館と産業交流センターなどの他、工場等が点在しているものの、民家は数える程で、居住人口を増やすことの難しさを目の当たりにしました。翌12日、駅から車で5分程の「浅野撫糸株式会社双葉事業所」内にある、カフェに併設の広々としたラウンジで、「双葉ジャンプアップコンサート」と銘打たれた日本フィルの弦楽四重奏とスパリゾートハワイアンズのフラガール3人のコンサートが開催されました。第一部ではフラガールによるハワイアンダンスショーが華やかに繰り広げられ、第二部で日本フィルの弦楽四重奏の演奏と、福島県三春町出身のチエロの山田智樹の誠実な司会ぶりも喜ばれました。最後は日本フィルとフラガールが共演し、来場者が口ずさむ、会場が音楽と踊りで一つになった心温まるコンサートになりました。今回で「被災地に音楽を」は339回目となり、今後、双葉町でも息の長い活動の必要性を感じました。



▲加須市立騎西小学校での弦楽四重奏(2011年5月6日)



▲フラガールとの共演(2023年11月12日)

想像を、チカラに。



人が想像できることは、必ず人が実現できる。
鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
in 鹿島

最高級のアコースティックを誇る
杉並公会堂
Suginami Koukaidou

日本フィルは杉並公会堂を活動拠点とし、
様々な活動を通じて音楽文化を発信しています。



日本フィル杉並公会堂
シリーズ公演より



春休みオーケストラ探検より
楽器体験



公開リハーサル

〒167-0043 東京都杉並区上荻1-23-15

Tel: 03-3220-0401

<http://www.suginamikoukaidou.com/>

※運営会社：(株)京王設備サービス

日本フィルを支えてくださる皆様に、
心より御礼申し上げます。

日本フィルは多くの方々の支えを基に、年間150回を超える演奏会を中心とした多彩な活動を行っております。質の高い演奏を継続してお届けするため、また、音楽を通して「豊かな社会」の実現の一翼を担う活動をいっそう推進するために、幅広い皆様のお力によって経済的基盤を強化することを願っております。

演奏によって皆様とつながり、皆様とともに豊かな社会を実現する担い手となることを願い、「オーケストラ・コンサート」「エデュケーション・プログラム」「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行い、音楽を通して文化を発信しています。

私達は、日ごろの活動を通して、音楽とはネットワーク、コミュニケーションの力によって広がり、喜びがより深くなるものだと実感しております。日本フィルの楽団員一同は、音楽によって人と人との繋がる喜びをもっとも理解する音楽集団として、人の心の温かさを、演奏に乗せて届けます。

日本フィルの活動を維持・発展させるためには、自助努力ももちろん大切です。引き続き経営面での努力を重ねます。

しかしいっぽう、文化の事業には継続性が大切です。こんにちはの日本において、安定した活動を継続するためには皆様からいただくご寄付、ご支援が欠かせません。日本フィルは今後、様々なコミュニティの皆様とともに多彩な活動を行っていきたいと考えております。

社会のより一層の発展にとって、文化の成熟は欠くことができないものとなっております。日本フィルも、その一翼を担う存在として、皆様とともにその社会的役割をさらに充実させてまいりたいと考えております。どうぞ温かいご支援をお願い申し上げます。

日本フィルハーモニー交響楽団
理事長 平井 俊邦

■お振込みでのご寄付

①お名前 ②ご住所 ③TEL ④お振込額 を
メール donation@japanphil.or.jp まで
お知らせください。

【お振込先口座】

三菱UFJ銀行 高円寺支店(支店コード:155)
普通預金 0242402

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

※振込手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

■オンライン寄付

日本フィルの公式ホームページから
クレジットカードによりご寄付いただけます。
右のQRコードから
ご寄付のサイトを
ご覧いただけます。

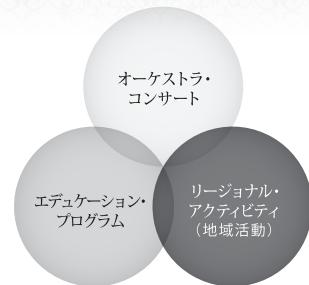


ご寄付をいただきました方には、
後日寄付金受領書等をお送りいたします。

感動の共有 日本フィルハーモニー交響楽団

文化の発信

日本フィルは、
質の高い音楽をお届けする《オーケストラ・コンサート》
音楽との出会いを広げる《エデュケーション・プログラム》
そして音楽の力で様々なコミュニティを活性化させる
《リージョナル・アクティビティ》という
三つの柱で活動を行い、
音楽を通して文化を発信しています。



今月から下記の方々よりご支援をいただくことになりました。(敬称略)

パトロネージュ 新井 康允 神奈川県／片山 茂 千葉県／細谷 義徳 千葉県
吉谷 由美子 神奈川県 匿名3名

| 日本フィルへのご寄付

税額控除または所得控除の対象となります。詳しくは左のページをご覧ください。

| パトロネージュ[個人寄付会員]

プログラム誌へのご芳名掲載などの特典があります。税額控除または所得控除の対象となります。
年会費:3万円／5万円／12万円／20万円／50万円／100万円

| 日本フィル・サポートーズクラブ

音楽に関心を持つ皆様に日本フィルの活動をご支援いただくシステムです。ご招待券2枚プレゼント、
主催公演チケット優先受付・優待(1割引)など様々な特典があります。
年会費:1万円

| 特別会員[法人寄付]

定期演奏会のご案内、プログラム誌へのご芳名の掲載などの特典があります。寄付金額を損金に算入することができます。

| 遺贈

遺言により財産をご寄付頂く方法です。税制上の優遇措置の対象となります。お申込みの方法など、提携銀行のご紹介など、詳しくは事務所までご相談ください。

お問い合わせ:日本フィル事務所 TEL03-5378-6311(10-18時、土日祝日休)

日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名

株式会社IDホールディングス
代表取締役社長 舟越 真樹

株式会社アIRE
代表取締役社長 荒江 健

アイング株式会社
代表取締役会長 飯嶋 康夫

赤坂維新號
代表取締役社長 鄭 東静

あすか製薬株式会社
代表取締役社長 山口 惣大

株式会社アトックス
代表取締役社長 矢口 敏和

株式会社アドービジネスコンサルタント
代表取締役社長 池田 昭司

イーソリューションズ株式会社
代表取締役社長 佐々木経世

株式会社泉商会
代表取締役社長 八方 淑夫

株式会社泉放送制作
代表取締役社長 日下部恵一

磯野不動産株式会社
代表取締役社長 磯野 計一

稻畑産業株式会社
代表取締役社長 稲畑勝太郎

株式会社インフォマート
代表取締役社長 中島 健

株式会社内田洋行
代表取締役社長 大久保 昇

内野株式会社
代表取締役社長 内野 信行

宇部エクシモ株式会社
代表取締役社長 古賀 源二

株式会社AIT
代表取締役社長 大熊 克美

ABCシステム株式会社
代表取締役社長 児玉 光宏

株式会社エイブル&パートナーズ
代表取締役会長兼社長 佐藤 茂

株式会社エヌエフホールディングス
代表取締役会長 高橋 常夫

NGB株式会社
代表取締役社長 宮崎 潔

エヌビーエス株式会社
代表取締役会長 飯嶋 一晃

株式会社エルイーテック
代表取締役社長 坂田 洋一

エレコム株式会社
代表取締役会長 葉田 順治

大隅ミート産業株式会社
代表取締役社長 小森 浩一

株式会社大場造園
代表取締役社長 大場 二郎

岡三証券株式会社
小川香料株式会社
代表取締役社長 小川 裕

株式会社ONODERA GROUP
代表取締役会長兼社長 小野寺裕司

公益財団法人オリックス宮内財團
代表理事 宮内 義彦

株式会社カクコム
代表取締役社長 畑 彰之介

鹿島建設株式会社
代表取締役会長 押味 至一

鹿島建物総合管理株式会社
代表取締役社長 山本 和雄

鹿島道路株式会社
代表取締役社長 吉田 英信

株式会社カナック企画
代表取締役 金子高一郎

株式会社歌舞伎座
代表取締役社長 安孫子 正

株式会社ガモウ
代表取締役 蒲生 茂

社会医療法人河北医療財團
理事長 河北 博文

川北電気工業株式会社
取締役社長 大津 正己

北野建設株式会社
代表取締役会長兼社長 北野 貴裕

キッコーマン株式会社
代表取締役社長CEO 中野祥三郎

キヤノン株式会社
代表取締役会長 兼社長 CEO 御手洗富士夫

キューピー株式会社
代表取締役 社長執行役員 高宮 満

株式会社協和日成
代表取締役社長 川野 茂

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯崎 功典

株式会社きんでん
取締役社長 上坂 隆勇

株式会社九曜社
代表取締役社長 望月 耕次

グローブシップ株式会社
代表取締役社長 矢口 敏和

京王重機整備株式会社
代表取締役社長 寺田雄一郎

株式会社京王設備サービス
取締役社長 梁瀬 哲夫

京王電鉄株式会社
代表取締役社長執行役員 都村 智史

株式会社小泉
代表取締役社長 長坂 剛

株式会社興建社
代表取締役 水島 隆明

コーヴィ株式会社
代表取締役 貝沼 信和

株式会社講談社
代表取締役社長 野間 省伸

株式会社コバヤシ
代表取締役 小林 達夫

コンパッソ税理士法人
代表社員 内川 清雄

株式会社コトブキ
代表取締役社長 深澤 幸郎

株式会社コンサートサービス
代表取締役 佐藤 修悦

佐藤製薬株式会社
代表取締役社長 佐藤 誠一

三機工業株式会社
特別顧問 梶浦 卓一

山九株式会社
代表取締役社長 中村 公大

サントリーホールディングス株式会社
代表取締役社長 新浪 剛史

三洋貿易株式会社
代表取締役社長 新谷 正伸

ジーエルサイエンス株式会社
取締役社長 長見 善博

株式会社慈恵実業
代表取締役社長 石塚 雄三

澁谷工業株式会社
取締役社長 澁谷 英利

株式会社じほう
代表取締役会長 武田正一郎

清水建設株式会社
代表取締役社長 井上 和幸

株式会社集英社
代表取締役社長 廣野 真一

株式会社シェルター
代表取締役会長 木村 一義

ショーボンドホールディングス株式会社
代表取締役社長 岸本 達也

新菱冷熱工業株式会社
代表取締役社長 加賀美 猛

株式会社ジャックス
代表取締役社長 村上 亮

株式会社ジンテック
代表取締役 柳 秀樹

杉山商事株式会社
代表取締役会長 杉山 健

住友ベークライト株式会社
代表取締役社長 藤原 一彦

株式会社スプリックス
代表取締役社長 常石 博之

全国保証株式会社
代表取締役社長 青木 裕一

第一倉庫株式会社
会長 小泉 駿一

株式会社泰秀
代表取締役社長 野口 通子

大正製薬株式会社
取締役会長 上原 明

大同生命保険株式会社
代表取締役社長 北原 瞳朗

大日本除虫菊株式会社
代表取締役社長 上山 直英

大和製罐株式会社
代表取締役社長 山口 裕久

高砂熱学工業株式会社
代表取締役社長COO 社長執行役員 小島 和人

千歳コーポレーション株式会社
取締役社長 森岡 寛司

千代田化工建設株式会社
代表取締役会長兼社長 柚田 雅和

株式会社千代田テクノル
代表取締役会長 細田 敏和

塚本總業株式会社
代表取締役社長 塚本 素清

ディアンドデパートメント株式会社
代表 ナガオカケンメイ

DM三井製糖株式会社

学校法人帝京大学
理事長 冲永 佳史

株式会社T&Aマネジメント
代表取締役 長田忠千代

THK株式会社
代表取締役社長 寺町 彰博

株式会社電通
代表取締役 社長執行役員 佐野 傑

東亜建設工業株式会社
代表取締役社長 早川 肇

株式会社東急コミュニケーションズ
取締役社長 木村 昌平

東京海上日動火災保険株式会社
取締役社長 広瀬 伸一

株式会社東京交通会館
代表取締役社長 興野 敦郎

東京都杉並区
区長 岸本 聰子

東京美装興業株式会社
代表取締役社長 八木 秀記

東洋熱工業株式会社
代表取締役社長 谷口 昌伸

戸田建設株式会社
代表取締役会長 今井 雅則

学校法人東京音楽大学
理事長 丸山恵一郎

株式会社永田音響設計
代表取締役社長 小口 恵司

株式会社永谷園ホールディングス
代表取締役会長 永谷栄一郎

株式会社ナミキ 代表取締役会長 並木 洋一

日総工産株式会社
代表取締役社長執行役員 兼 CEO 清水 竜一

日鉄興和不動産株式会社 代表取締役社長 三輪 正浩

株式会社ニフコ 代表取締役会長 山本 利行

日本精工株式会社
取締役 代表執行役社長・CEO 市井 明俊

日本製鉄株式会社 代表取締役社長 橋本 英二

日本電子株式会社
代表取締役会長 兼 取締役会議長 栗原権右衛門

日本パーカライジング株式会社

株式会社ネイチャーズウェイ
代表取締役社長 萩原 吉晃

根本特殊化学株式会社 代表取締役社長 根本美恵子

バイオニア株式会社
代表取締役兼社長執行役員 矢原 史朗

ハウス食品グループ本社株式会社
代表取締役社長 浦上 博史

株式会社博報堂 代表取締役社長 水島 正幸

ハナマルキ株式会社 代表取締役社長 花岡周一郎

パンパシフィック・カッパー株式会社
代表取締役社長 堀 一浩

阪和興業株式会社 代表取締役社長 中川 洋一

東日本住宅株式会社 代表取締役 桃野 直樹

非破壊検査株式会社 代表取締役社長 山口多賀幸

ひびき・ベース・アドバイザーズ
代表取締役社長 清水 雄也

株式会社ファミーユ 代表取締役 新庄眞帆子

富国生命保険相互会社 代表取締役社長 米山 好映

富士テレコム株式会社 代表取締役社長 西田 孝一

一般財團法人 藤本育英財團

古河産業株式会社 代表取締役社長 伊藤 啓真

合同会社ベルファーマシー 代表社員 前島 景子

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

ホッカントホールディングス株式会社
代表取締役社長 池田 孝資

株式会社ポニーキャニオン
代表取締役社長 吉村 隆

本田技研工業株式会社
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

株式会社牧野フライス製作所
取締役社長 宮崎正太郎

マネックスグループ株式会社
代表執行役社長CEO 清明 祐子

株式会社丸井グループ 代表取締役社長 青井 浩

株式会社丸の内よろず 取締役社長 中村 正博

丸美屋食品工業株式会社 代表取締役社長 阿部豊太郎

株式会社三井住友銀行 頭取CEO 福留 朗裕

三井倉庫ホールディングス株式会社
代表取締役社長 古賀 博文

三井不動産株式会社 代表取締役会長 菊田 正信

株式会社三越伊勢丹アイムファシリティーズ
代表取締役会長 飯嶋 康夫

株式会社三越伊勢丹ホールディングス
特別顧問 石塚 邦雄

三菱HCキャピタル株式会社
代表取締役 社長執行役員 久井 大樹

三菱オートリース株式会社
代表取締役社長 中野 智

三菱ガス化学株式会社 代表取締役社長 藤井 政志

三菱地所株式会社 執行役社長 中島 篤

三菱自動車工業株式会社
取締役代表執行役社長 兼 最高経営責任者 加藤 隆雄

三菱重工業株式会社 取締役社長 泉澤 清次

三菱倉庫株式会社 相談役 宮崎 育

株式会社三菱UFJ銀行 頭取 半沢 淳一

三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
取締役社長 兼 グローバルCEO 小林 真

武蔵商事株式会社 代表取締役 宇田川紀通

明治安田生命保険相互会社
取締役代表執行役社長 永島 英器

株式会社明和住販流通センター
代表取締役 塩見 紀昭

メッドサポートシステムズ株式会社
代表取締役 谷川ひとみ

株式会社メディアグラフィックス
代表取締役社長 我妻まどか

株式会社メルコホールディングス
代表取締役社長 牧 寛之

森社会保険労務士事務所 所長 森 康之

株式会社ヤクルト本社 相談役名誉会長 堀 澄也

山崎製パン株式会社

UBE株式会社 取締役会長 山本 謙

ユウキフーズシステム株式会社
代表取締役社長 田中 秀和

横河電機株式会社

米持建設株式会社 代表取締役 米持 大介

リガク・ホールディングス株式会社
代表取締役社長 川上 潤

株式会社リヨーサン
代表取締役社長執行役員 稲葉 和彦

株式会社Rings 代表取締役 矢部 和広

株式会社リンレイ 代表取締役社長 鈴木 信也

ローム株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 松本 功

匿名5名

(2024年1月1日現在・50音順・敬称略)

パトロネージュご芳名

(2023年12月20日現在)
50音順・敬称略

Member's TVU CHANNEL CLASSICAL MUSIC

クラシカルミュージック

<https://members.tvuch.com>



Member's TVU CHANNELは、クラシック音楽のコンサートの臨場感をいつでもどこでもお楽しみいただけるインターネット・サイトです。コンサートホールからのライブ配信、さらにコンサートが終わったあともアーカイブ映像としていつでも視聴可能です。日本フィルの配信は1,000円で3ヶ月間何度でもご視聴いただけます(販売期間は6ヶ月です)。

まずはID登録! メールアドレスとパスワードのみで簡単!

9月22日 さいたま定期演奏会 指揮:小林 研一郎

ブラームス:交響曲第1番

10月14日 東京定期演奏会

指揮:カーチュン・ウォン サoprano:山下 牧子 女声合唱:harmonia ensemble

児童合唱:東京少年少女合唱隊

マーラー:交響曲第3番

10月22日 名曲コンサート 指揮:カーチュン・ウォン

ブラームス:交響曲第1番

12月9日 東京定期演奏会 指揮:カーチュン・ウォン マリンバ:池上 英樹

外山雄三:交響詩《まつら》 伊福部昭:オーケストラとマリンバのための《ラウダ・コンチェルタータ》

ショスタコーヴィチ:交響曲第5番

12月15日 さいたま第九演奏会

指揮:広上 淳一 ソoprano:竹下 みづ穂 サoprano:但馬 由香 テノール:工藤 和真

バリトン:池内 韶 合唱:埼玉第九合唱団

ケルビーニ:歌劇《アナクレオン》序曲 ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》

12月26日 第九特別演奏会2023

指揮:小林 研一郎 ソoprano:市原 愛 アルト:山下 牧子 テノール:笛田 博昭

バリトン:青山 貴 合唱:日本フィルハーモニー協会合唱団

J.S.バッハ:高き天よりわれは來たれり BWV738 / 主よ、人の望みの喜びよ /

トッカータとフーガ BWV565(以上3曲オルガン独奏)

ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》

1月13日 さいたま定期演奏会 指揮:川瀬 賢太郎 ヴァイオリン:岡本 誠司

チャイコフスキイ:《エフゲニー・オネーゲン》よりポロネーズ

チャイコフスキイ:ヴァイオリン協奏曲 J.シュトラウスⅡ世:ポルカ《ハンガリー万歳》

ブラームス:ハンガリー舞曲第5番 J.シュトラウスⅡ世:ワルツ《南国のバラ》

レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリアより「シチリアーナ」

J.シュトラウスⅡ世:喜歌劇《こうもり》序曲

1月27日 東京定期演奏会 指揮:カーチュン・ウォン ピアノ:児玉 麻里、児玉 桃

ブランク:2台のピアノのための協奏曲 コリン・マクフィー:タブー・タブーアン

ドビュッシー:交響詩《海》

❖ 新入団員紹介 ❖

新入団員に11の質問!

ヴィオラ

江藤 史織 ETOU Shiori

ヴィオラに新たに入団いたしました
江藤史織をご紹介いたします。



1 誕生日 2月8日

2 私はこんな人 マイペース

3 楽器を始めたきっかけ 親に勧められて

4 音楽家になっていなかったら? 普通の会社員…?

5 時間があったら何をしたい? たくさん寝る

6 リラックス方法は? のんびりだらだら

7 好きな映画を一つ教えてください シエイプ・オブ・ウォーター

8 座右の銘があれば 慎始敬終

9 日本フィルに入団が決まった 瞬間の気持ちを一言で やったー!!!!

10 ずばり、今のところ日本フィルは こんなオケだと思う 居心地がよい、でもやるときはやる

11 最後にお客様へのメッセージをお願いいたします

いつも日本フィルを応援していただき、ありがとうございます。

皆様と様々な音楽を共有できることを楽しみにしております。

NEXT CONCERTS
» 次回東京定期演奏会

第758回

サントリーホール

プレトーク
広瀬 大介氏
2024年3月22日(金)19:00開演 18:30~

23日(土)14:00開演 13:20~

リープライヒ、4年半ぶりの再登場
～ドイツ・ロマンティック王道のシューマン！

指揮：アレクサンダー・リープライヒ

ヴァイオリン：辻 彩奈

三善晃：魁響の譜

シマノフスキ：

ヴァイオリン協奏曲第1番 op.35

シューマン：

交響曲第3番《ライン》変ホ長調 op.97



©Sammy Hart



©Makoto Kamiya

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引きがございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー！

アレクサンダー・リープライヒ 編

聴き手 後藤 菜穂子

—リープライヒさんは日本フィルには2019年に2度客演されており、3度目のご登場となります。これまでの共演を通じてオーケストラにどのような印象をお持ちでしょうか？

日本フィルは大好きなオーケストラであり、しばらく間が空いてしまってさびしく思っています。奏者のみなさんはすばらしく、またマネジメントや企画サイドもしっかりしており、プログラミングに対してオープンな姿勢を持っている点も大きな特色だと感じています。私はつねに演奏会に自然な形で古典／現代の双方の作品を取り入れたいと考えており、そうしたプログラムを実現させてもらえて嬉しく思っています。初共演の際に演奏したルトスワフスキの交響曲第3番ではオーケストラの真摯な姿勢が強く印象に残っていますし、今回、三善晃の《魁響の譜》を初めて指揮できるのも心待ちにしています。

—リープライヒさんはこれまで日本の作曲家の作品を数多く指揮されてきているそうですね。

はい、最初に出会った日本の作曲家は細川俊夫さんでした。私が当時、芸術監督をつとめていたミュンヘン室内管弦楽団と彼の作品の初演やレコーディングを行いました。その後、私が韓国・トンヨン国際音楽祭の監督をしていた時代には、日本を含むアジア圏の若い作曲家たちを毎年招いており、日本の作曲界は女性も多く、とても活気があると感じていました。最近では藤倉大さんの作品をヨーロッパでよく指揮していて、2019年にはBBCスコティッシュ交響楽団と小菅優さんの独奏で、彼のピアノ協奏曲第3番を指揮しました。

—初めての作品にはどのようにアプローチされるのでしょうか。

まずはスコア（総譜）を読み込んで、縦の線を追いながら誰が何を弾いているかを確認するところから始めますが、とくに最初の数ページで作曲家の「筆づかい」を感じ取ることが大事だと思います。その点で、私は意外と手書きの楽譜が好きだったりします。たとえば、最近の作曲家でいえば、パスカル・デュサパンのスコアは手書きです。もちろん印刷されたスコアからも、作曲家が頭の中でどういったエネルギーをもって音楽を作り上げたかは読み取れますので、そうしたイメージを大切にしています。

—初共演時のルトスワフスキに続いて、今回はシマノフスキを取り上げますが、リープライヒさんのポーランドとのつながりについて教えてください。

2012年からポーランド国立放送交響楽団の音楽監督を7年間務め、その間にシマノフスキやルトスワフスキらポーランド人作曲家の音楽を数多く演奏し、録音してきました。ですから、ポーランドの音楽を日本のみなさんにもぜひ聴いていただきたいと思って選びました。

今回演奏するシマノフスキのヴァイオリン協奏曲第1番は、後期ロマン派および印象派の様式で書かれた壮大で魅力あふれる作品です。彼のオーケストラ作品は総じて豊潤な管弦楽の扱いが特色で、この曲ではソリストとのバランスに配慮しつつ、いかにオーケストラの豊かな色彩を活かせるかが鍵となります。

ちなみにポーランド放送響の本拠地は南部の都市カトヴィツェにありますが、私が在任中いつも滞在していたホテルの部屋は、昔シマノフスキが滞在していた部屋だったんですよ！

—シューマンの交響曲第3番《ライン》についてはどんな思い入れをお持ちですか？

シューマンは大好きな作曲家です。私はもともと声楽を学んだので、歌曲には親しんできましたし、歌手としての最後のコンサートで歌ったのも《詩人の恋》でした——第6曲ではライン川が歌われますね。

一方で、シューマンの交響曲《ライン》はなかなかむずかしい曲です。指揮者ではなくオーケストラが主役であり、指揮者はオーケストラの内部に入って各声部に耳をすまして、フレージングを合わせ、曲を内側から形作っていく必要があります。その意味では初対面よりも、すでに信頼関係を築いている楽団とのほうが演奏しやすい曲であり、日本フィルのみなさんと一緒にシューマンの世界を創り上げるのを楽しみにしています。

助成：



文化庁芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

チケットお申込・お問い合わせ

[日本フィル・サービスセンター]

TEL.03-5378-5911(平日10時~17時)

eチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL.03-5378-6311

<https://japanphil.or.jp>公式X(旧Twitter)
@Japanphil

公式アカウント



日本フィル公式YouTube

「5分でわかる!
大人のためのオーケストラ入門」

毎月10日・20日にお届け

「Welcome クラシック」
毎週水曜日 22:54~23:00 放送中!!